



# はなさかさかす

社会福祉法人報徳会  
広報紙 (季刊)  
令和6年春号  
発行責任者  
理事長 内田善久

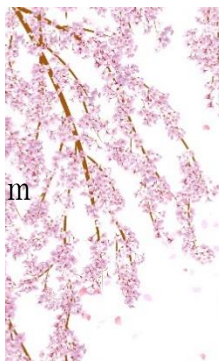


## 春來たる。

## 桜花繚乱

はなさかの桜たちは、おかげさまで十三回目の満開を迎えました。今年も変わらず力強さと優しさを私たちに見せてくれていきます。

桜たちはこの爆発的な花の魅力を発揮するために、緑の葉を茂らせ、秋に落葉し、冬の寒さに身を置くことで開花の力とする1年を過ごします。私達も日々一日を大切にしていきたいと思えます。今年から夜間のライトアップを始めました。妖艶な姿をお楽しみ下さい。  
(令和六年四月撮影)



### はなさか連載コラム ⑱

#### 櫻歌『(ヤノハネ)ー出逢つておぼしう』

社会福祉法人報徳会理事 岩壁 清吉



《優しさにひとつ気がつく。×でなく○で必ず終わる日本語》  
文の区切りを。で収める当たり前に、待ったが掛かっていると  
いう。チャットやLINEでのやり取り。句点で終わることに恐怖  
・威圧・拒絶を感じるとする世代、名付けて「マルハラスメント」。  
こうした句点の逆風を受け、「この一首そつと置いておきますね」  
とX(ツイッター)に投稿した俵万智の一首と言葉に私も大賛成。  
《そう。やはり句点を悪者にはいけない。ぶつきらぼうでな  
いメッセージを。》で結ばばいい。《(余録)毎日新聞24・2・17》

この三月「はなさか理事会の事業計画の報告に聞き入る。「身を  
尽くし手を尽くし心を尽くす」の《行動指針》を膺をめぐるよう  
に真率・実篤に説明する千葉智施設長に 主唱先導の内田理事長が地  
域への還元事業(連繫・参加・福祉の具体策)を補足する。実にいい。

《逃げないで正面から立ち向かう》をテーマとして責任を持った行  
動に努めます。職員は感謝の言葉を日々伝えあうことにより笑顔で  
気持ちの良い職場環境を大事にします。グッジョブ委員会を改め  
「ありがとう委員会」を創設し施設内に「ありがとう」が広がる職場を  
目指します。》の「ぶつきらぼうでないメッセージ」の結びが、快い。  
『週刊ダイヤモンド』24・3・9号の「後悔しない医療・介護」の記事。

《看取り実績で厳選！特別養護老人ホーム188》に「はなさか」がリス  
トアップされ、内閣府からの後押しと支援もあると。すばらしい。  
6年前柚本敦子医師の指導の下、スタートした看取り介護「花道」。  
介護・看護・栄養課のチームワークの成果も讃えたい。ありがたい。  
誰もが通り近く「花道」を思い、誰もが最初に辿り来た道について。

《寺山修司は少年時代「おまんこ」の一語に優雅を感じたという。  
《両の手で頬を包める優しさに「お」と「こ」はそつと「まん」を守れ  
り》俵万智の歌である。「男」という言葉が掛詞として隠されてい  
て信頼感と優しさが滲み出ている。長らく卑しめられてきたこの言  
葉を慈しみ、日本語の富を回復しようとする意志が感じられる。》  
《大波小波 東京新聞18・11・24》「桜会」の下、出逢えてありがとう。



十年以上の長きにわたり、はなさかを支えて頂いている職員の方を表彰する制度ができました。この度、対象となる二十六名の方へ表彰状と記念品の授与が行われました。今後は十年、二十年、三十年の節目となる対象の方を毎年春に表彰して参ります。



永年勤続者表彰

**お疲れ様でした**  
十年以上の間、送迎ドライバーとして活躍された早野ドライバーが勇退されました。お疲れさまでした！



**ご寄付頂きました。**  
井上歯科医院（南区下溝）井上俊彦先生より昨年につづき、プラスチックガウン（六十枚入）2ケースをご寄付頂きました。感染症対応に活用させていただきます。厚く御礼申し上げます。



**スタッフ紹介**  
3階月光ユニットのリーダー濱浦玲央さん、毎日元気いっぱいはつらつとしています。



**はなさか農園 2023**  
ジャガイモとネギがすくすくと育っています。男爵芋とメークイン種を栽培しています。タマネギの収穫や、オクラの種まき、さつまい芋の準備と忙しくなってきます。

